

渡御復活

匠 瑗 探 訪

195

夏祭りの代表的なものに祇園祭があります。9世紀中ごろ、京都で流行した疫病退散を祈願したことが由来とされ、全国的に行われています。

今年の夏、新型コロナウイルスの影響で中止や延期となっていた諸行事も感染対策を徹底し、従来とは規模や内容を変え開催されるということが報じられています。

八重垣神社の祇園祭も3年ぶりに神輿の連合渡御が復活するそうです。この祭りの開始時期は諸説ありますが記録をた

どると、1697（元禄10）年ごろとみるのが妥当でしょう。

神社神輿が1606（慶長11）年に新造されたという記録が最も古いのですが、町方の成り立ちを考えこれをもって祇園祭が始まったとするには少し無理があるように思います。

現在の八重垣神社は当時、天王宮と呼ばれ見徳寺が管理していました。村人の中にはこうした神社行事を神主に任せたいとの願いもあり、老尾神社の神主が祭事を執り行ったとされます。

令和元年八重垣神社祇園祭の連合渡御



1761（宝暦11）年の祭りは6月18日の夕方旅所に神輿を安置し、19日、20日に村の6町内の神輿渡御が行われました。

この日程は1910（明治43）年まで、およそ150年以上続いたと考

えられます。

祭日はこの年に現在採用されている太陽暦の8月1日、2日に変更されたものの、ほどなく従来の旧暦の6月18日から20日の3日間に戻されました。

この頃、18日早朝から各町内で時間を決めて神社神輿の渡御を行っていましたが、盛り上がる雰囲気の中で、野手浜まで担ぎ出す町内もあって祭りが3日、4日も延びる年もあったそうです。

1923（大正12）年から現在見られるような年番町の神輿を先頭に10町内の連合渡御形式になったとされます。

1941（昭和16）年から戦争の影響で2日間となり、翌年から渡御は中止、戦後は1946（昭和21）年から復活しました。

こうした歩みの中で、今回連合渡御が復活しました。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080